**第１６回市民自治推進委員会　まちづくり部会議事録**

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 平成３１年２月８日（金）　１８時３０分～ |
| 開催場所 | 登別市役所　２階　第２委員会室 |
| 出席者 | （部 会 長）中原　義勝  （副部会長）成田　育磨  （部 会 員）山田　正幸  （庁内委員）田中　道郎  （庁内委員兼事務局）笠井　康之  （事 務 局）伊藤慶一郎 |
| 欠席者 | （部 会 員）田中　寛志、稲葉　一彦、渡部　雅子、  川島　雅司、工藤　隆行、髙橋　達朗 |
| 議　　題 | チラシの構成案や盛り込んだ方が良い文案等の意見について |

協議の概要

平成３０年１０月１６日（火）に開催した第１５回まちづくり部会において、「協働のまちづくり」を促進させるチラシの作成など、同部会における今後の取組の方向性が決まったことから、チラシの素案作成に向け、各自検討してもらった構成案や盛り込んだ方が良い文案等について協議・検討する。

チラシ内容（対象）の再考

●協議事項

　・登別市まちづくり基本条例が平成１７年に施行され、「協働のまちづくり」が謳

われるようになり、条例の策定当初からこれまでの間、少子高齢化や人口減など

社会情勢も大きく変わってきているが、その煽りを受けているのが町内会で、役

員のなり手が不足し、存続の危機である町内会も一つや二つではないことから、

「協働のまちづくり」のパートナーである町内会の体制強化が重要である。

・人口減は今後も避けられない課題であり、お金をかけて定住人口を増やしたり、

コンパクトシティに取り組むことはナンセンスであることを考えれば、「協働の

まちづくり」のパートナーである町内会の体制強化につながる内容とした方が良

いのではないか。

⇒当初、事務局では、市民に「協働のまちづくり」は難しいものではないという

ことを理解してもらい、様々な取組に参画してもらえるようなきっかけとなる

内容を想定していたが、上記のような社会情勢の変化も鑑み、ターゲットや構

成の変更も必要だろう。

●決定事項

　・上記の懸念事項を踏まえ、町内会への加入を呼び掛け、町内会加入率の上昇によ

る協働のまちづくりの活性化につながる内容となるよう方針転換した。

方針転換後のチラシ内容の検討

●協議事項

・町内会加入率の低下が招く地域の問題及び不利益など、問題提起をし、市民の危

機意識が醸成され、「だから協働のまちづくりは必要なんだ」という流れにする

のが良いと思う（キーワードは“危機感”）。

　・危機感だけではなく、加入することのメリットも記載しないと身近に感じない。

　　⇒防犯灯は町内会が設置しているものだと思っていない人は沢山いると思うし、

そういう“有り難み”は町内会に加入して、関わって初めてわかるものなのか

もしれない。

　　⇒新聞で見たが近年、こども会を再興する動きが出てきているというが、こども

の頃はクリスマス会など、こどものためのイベントも多く、これらは町内会が

企画してくれたものであるので、町内会を絶やさず次世代に残していくために

も、受けた恩恵を次の世代に返していくことが必要である。

●決定事項

・チラシの作りとしては、少子高齢化や人口減により若い世代の町内会役員のなり

手が不足し、防犯灯やごみステーションの管理、また、交通指導や見守り活動に

支障が出ることを理解してもらうとともに、町内会の取組や活動を紹介し、それ

らの活動の継続にも影響が出ることも周知し、加入を促す構成とする。

　・事務局にて以上の内容を盛り込んだチラシのベース案を作成する。

●その他

　・チラシ配布後にアンケート等を実施し、市民の反応を見てみたい。

　・チラシ配布のタイミングを２０２０年８月の市制施行５０周年に合わせる、とい

うのもインパクトがある。

【次回会議】

　・日程：チラシのベース案作成後に開催する。

　・内容：登別市連合町内会・事務局長に部会に出席してもらい、町内会の現状をお

話ししていただくとともに、チラシのベース案についても協議する。